

第三者評価結果報告書

① 第三者評価委員

北広島市立緑ヶ丘小学校教頭 阿部恵子
北広島かおり幼稚園 保護者 吉田 南津美
北海道文教大学 教授 加藤 裕明

② 事業所 学校法人 恵愛学園 幼保連携認定医こども園北広島かおり幼稚園

種 別 認定こども園

代表者 理事長 松本 隆 定員 65 名

所在地 061-1146 北広島市高台町 1 丁目 9-1 電話 011-372-2476

ホームページ <https://kitahiro-kaori.com>

施設・事業所概要 開設年月日 1977 年 12 月 6 日

設置者(法人名) 学校法人 恵愛学園

常勤職員数 15 人 非常勤職員 7 人

保育士 18 名 園長 1 名 副園長 1 名 バス運転手 2 名

給食 自園調理 委託業者 一富士フードサービス(株) 調理員 3 名

施設・設備 保育室 7 室 ホール 2 室 職員室 1 室 事務室 1 室 調理室 1 室

休憩室 1 室 応接室 1 室 ロッカールーム 2 室

園庭 駐車場

③ 理念・基本方針

キリスト教(プロテスタント)が示す神の愛。基つき、自分が神に愛されていることを自覚し、互いのいのちの尊さを知り、将来にわたり、自分らしく、主体的で豊かな生きた多を培う。

「私の目にはあなたは高価で尊い。私はあなたを愛している。」との聖書のことばに基つき、1 人ひとりが神様から造られた大切な存在であることを自覚し、周りの家族、友達も等しく大切な存在であると理解する。

④ 保育の特徴

3.4.5 才は縦割りのクラスで保育を行う。年長は年少の世話を自ら行う。感謝され、認められることで自己肯定感を養い、自信をもっていく。年少児は、周りが自分を受け入れ、守ってくれる環境であることを自覚し、早くに落ち着いて遊びへと入れる。周りの友達保育者への信頼をもてる。年中はその信頼の中更に年長児をみて、自分もそうなりたいとあこがれ、夢をもっていける。この幼児期の幼いときに人として生きていくための必要な感性、心の土台を養う。

0.1.2 才は保育者が担当制で子どもたちを見ていく中で、まず、人への信頼関係、守られている環境の中で育つことによって、自分が愛されていることを十分受けながら育つ。布おむつを使うことによって豊かな感受性を養う。

⑤ 第三者評価状況

実施期間 2024 年 4 月から 2025 年 3 月

⑥ 保護者への取り組み

コロナ禍で保護者との関りも制限されていたため、徐々に保護者主催の行事を取り組みを行っている。もっと、保護者へ園の保育の内容一人ひとりのこども達への関りを伝得ていく必要を覚えている。保護者から見る園の保育と園側の保育の考え方など多くの方互方には理解されているが、まだ届いていない面を感じている。

⑦ 総評

評価できる点

- ・園としての教育理念や保育環境に満足していると感じる
- ・保育者への信頼も厚い
- ・保育の様子をもう少し知りたいと思っている保護者が一定数いる

おおむね、保護者の理解を得て園運営がなされていると感じます。特に良い評価を得ているのは、幼児への理解や丁寧な保育です。職員が幼児一人一人の個性や良さを理解して大切にし、それを伸ばそうとする姿勢が伝わっている点が、一番評価できる結果となっていると思います。

改善点

- ・唯一の課題は、かおり会の活動と保護者間の意思疎通と考える保護者が多い

保護者間の交流を求めている人と求めていない人両方いるので一概には言えないが、かしこまらず気楽に話せる場や機会が増えるといいのではないかと。かおりカフェやパン教室、バザーの準備など。特にバザーの準備は自己紹介などもなく作業しながら雑談をして話しやすい雰囲気だったと思う。降園後にすずらん公園で子どもたちが遊ぶのに付き添う時間は保護者同士で話せたりする。子どもたちの馴染みの公園に親子遠足に行くのはどうか。

・課題点を挙げるとすれば、防災や災害時における対応や危機管理マニュアル等の具体が保護者に伝わっていない可能性があることです。また、「かおり会の活動が無理なく行われている」「保護者間の意思疎通」の項目について「大体そう思う」が「そう思う」を上回っています。保護者はかおり会の活動に負担感を抱いているのか、かおり会を通してさらに保護者間の連携を増やしたい、交流を増やしたいのか、このデータだけでは判断できません。何かを感じているかとは思いますが。

⑧ 第三者評価に対する事業所のコメント

保育内容を見てくださり、公平に評価していただいたことに感謝しています。

また、大半の方々がかおりの保育「一人ひとりを大切にする」ことにおいて理解していただいていることに感謝しています。評価されることに少なからず、恐れを持ちつつの評価でした。日々、保育を精いっぱい行っているつもりでも、足りない面があり、届いていない面もあることを真摯に受け止め、対処していきたいと思います。

評価調査の方、保護者の方々に保育内容において、当園がやりたい保育を御理解していただけたことに感謝しています。しかし、日々の保育の様子、子どもたちの様子を保護者に伝えていく事の関してはまだ、まだ不足を感じておられる方々がいらっしゃることを踏まえ、どのように伝えていくかを考え、具体的に実行してまいりたいと考えています。

また認定こども園への移行とともに事務作業が多くなり、園長として保護者への関りが薄くなっていたことを反省しています。事務作業の多さにおいては評価委員ではありませんが、公認会計士にも、早急に改善を求める方向でアドバイスをいただき、様々な方法を検討し、対処し、大切なお子さん、保護者との関りを大切にしていけるよう、配慮していきます。教職員それぞれが今ひとたび、自らを振り返り、保育への姿勢、考え方を吟味し、互いにチームワークを深めて望んでいきたいと考えています。

第三者評価結果報告書

園名：幼保連携型認定こども園 北広島かおり幼稚園

委員：加藤 裕明

〈評価基準〉 A：よくできている B：ほぼよくできている
C：あまりできていないので、一部検討を要する
D：まったくできていないので、改善を要する

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項など）		評価
北広島の豊かな自然のなか、縦割り保育の実践、保護者との協働、信頼関係の構築によって、子どもがなかまとともに安心して育ち合う保育環境の充実に努めた。		A
評価領域	特記事項	評価
1 園の教育目標	子どもひとりひとりを大切にすることと同時に、子どもと子どもとの関係づくりを大切にする保育を実践した。	A
2 本年度に定めた重点的に取り組む目標や計画	縦割り保育の実践に取り組み、子どもが、なかまとの関係づくりによって主体的に育ち合うことに取り組んだ。	A
3 園長の経営姿勢	子どもの最善の利益を目指し、保育の環境を整え、家庭との信頼関係構築によく努力した。	A
4 教師の指導姿勢	保育者、職員は同僚性を大切にし、日々、各々の役割を献身的にこなした。	A
5 日常の主な行事活動	子どもたちの安全とすこやかな育ちを大切にする保育がおだやかに行われた。	A
6 幼稚園の主な行事	運動会を保護者とともに取り組んだ。その結果、支援の必要な子どもたちも不安を持つことなく参加でき、保護者から高く評価された。	A
7 幼稚園と家族の連絡	保護者のなかには、子どもの様子をもっと伝えて欲しいという方もある。認定こども園に移行するなか、多忙化は否めないが、この点については次年度の課題である。	B
8 園の情報公開	保育方針や実践、日々の子どもの様子について、HP や Facebook 等をも活用し、情報公開に取り組んでいる。	A
9 保護者の活動	保護者とともに取り組む行事は、コロナ禍で中断していたが 2024 年度は全面的に実施できた。園の行事に積極的に参加したいと考えている保護者も少なくない。	A
10 今後取り組むべき課題	保護者との信頼関係をさらに豊かにしていくため、子どもの様子をさらにきめ細かく伝えていく。	B

* その他